

令和6年度 第3回足柄広域新モビリティサービス推進協議会 議事録

日 時 令和7年3月25日(火) 10:00～

場 所 松田町役場 1階1AB会議室

出席者：梶田副会長、市野委員(代理：池田委員)、中津川委員(代理：佐々木委員)、浅野委員(代理：山崎委員)、柳澤委員、畑野委員、佐野委員、山崎委員、鴨下委員(代理：内川委員)、田中委員(代理：小澤委員)、湯川委員、岩本委員(代理：大石委員)

欠席者：杉本会長、宿谷委員、森下委員、尾登委員、陶山委員

事務局：政策推進課

鈴木英幸、鍵和田龍太、鎌田拓哉、鍵和田幸義、

一般社団法人足柄オンデマンド 蛭海 友貴

オブザーバー：地域公共交通会議会長 古舘信生、小田原箱根交通株式会社 瀬戸 泰一、
松田町福祉課長 宮根 正行、松田町観光経済課長 遠藤 洋一

【会議次第】

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 今年度の取組概要について

(2) 「のるーと足柄」運行分析結果及び今後の取り組みについて

(3) その他

4 閉会

【会議概要】

1 開会

・事務局より開会のあいさつ

2 会長あいさつ

・副会長による挨拶

3 議事

(1) 今年度の取組概要について

○足柄オンデマンド

・資料1を基に説明

・以下、質疑応答

○委員

・令和 6 年度収支見込書ではマイナス約 4,100 万円、前年度も約 3,000 万円の赤字があったと記憶している。この累積赤字はどのように処理するのか。

○足柄オンデマンド

・累積赤字の課題は認識している。長期的な本格運行を見据えるなかで、観光連携など新たな取り組みや補助金の活用提案を進め、徐々に改善を図りたい。

●事務局

・町長および足柄オンデマンド理事長を中心に協議を重ねており、来年度はエリア拡充に加え、運行範囲を効率化のために絞り込むことも検討している。また、専門的・コアなメンバーによるスモールサイズの検討の場を設ける方向で進めていくと足柄オンデマンドから伺っている。

○委員

・運行台数を 4 台から 3 台に削減した影響をどう捉えているか。新たな車両としてミニバンサイズの導入を検討しているとのことだが、どのような区間・路線への投入を想定しているか。

●事務局

・基本的には寄地区まではある程度の利用者がいるため現行のハイエース車両を維持し、町内の平地部・鉄道アンダーパスが多い区間には車高の低い小型車両を投入することで効率化を図れればと考えている。

○足柄オンデマンド

・4 台から 3 台への削減は、配車システムの乗合許容時間の調整等の改修により乗合実現性が向上したため、利用者数に大きな減少はなく、むしろ若干の増加傾向にある。来年度は寄地区の運行をさらに 1 台で賄える体制を検証中であり、最大稼働 2 台体制でも現行と同水準の輸送が可能となれば、委託費・燃料費等の削減につながる見込み。なお、キャンセル率には前年度と比較して大きな変化はない。

○委員

・今回の資料では収支見込書のみが添付されているが、令和 6 年度当初予算との比較表の添付が必要ではないか。当初予算は収入約 5,900 万円、費用約 7,800 万円であったが、収入が約 2,600 万円下回っている。

・「令和 8 年度以降の運行について」に「松田町から受託している実証実験が令和 7 年度で終了」とあるが、これは令和 8 年度以降、町委託金および補助金が 0 円になるという解釈でよいのか。

●事務局

・予算比較表については次回以降の資料に反映したい。令和 8 年度以降の運行に関しては、町としてどこまでサポートできるかも含め、令和 7 年度中に足柄オンデマンドと協議を重ねていく段階であり、現時点で確定的な回答はできない。

○委員

・約 4,000 万円の赤字は現状足柄オンデマンドが負担している状態であり、町からの支援を入れるかどうかを協議中ということか。仮に町が支援しなかった場合、事業として成り立つのか。

○足柄オンデマンド

・現在、賛同いただける企業・団体との交渉を進めており、観光分野等メリットを共有できる事業展開を模索している。厳しい状況ではあるが、可能性を追求している。

○委員

・令和 7 年度の収支予算見込みが今回資料に添付されていないが、町の委託金・補助金は増額されているのか。

●事務局

・令和 7 年度の町委託金は令和 6 年度より微減で予算計上している。契約締結前のため変動の可能性はある。

○委員

・山北町・開成町へのエリア拡充は、現行台数のまま運行費用を増やさずに対応するのか。

●事務局

・交付金は 1 路線につき 1 年のみ対象となるルールがあり、1 年度目は大井町、2 年度目は開成町、3 年度目は山北町への運行費用に充てる委託料として町が支出する仕組み。それ以外は運賃収入や車内サイネージ広告等で賄う計画であった。エリア拡充は松田町民の利便性の向上を目的としており、各町からの負担は求めない。ただし利用実態を踏まえ、効率性が低いエリアは縮小も検討する。

(2) 「のるーと足柄」運行分析結果及び今後の取り組みについて

○足柄オンデマンド

- ・資料 2 を基に説明
- ・以下、質疑応答

○委員

・資料 2 の総評にある「配車方法の見直し」とは具体的に何を指すか。

○足柄オンデマンド

・現行は即時予約・直前予約が可能なシステムだが、これを例えば「30 分前までに予約締切」とする方式へ変更し、確定したルートで運行する方式を検討している。これにより車両の不意な迂回がなくなり、運行効率が大幅に改善される見込み。なお、現在複数のシステム会社から提案を受けており、イニシャルコストの削減も検討中である。今回の収支予算書添付に至らなかったのはこの選定が未確定であることが理由である。

○委員

・配車方法の変更は効率化に有効だが、利用者にとっては「タクシーとの違い」が分かりに

くくなる懸念がある。アンケートでも「時間が読めない」との声が多い。即時性を求める層はタクシー、計画的な利用層はオンデマンドという棲み分けの周知が必要ではないか。

○足柄オンデマンド

・ご指摘のとおりであり、システム変更にあわせて利用者への周知・理解促進にも取り組みたい。

○委員

・令和6年度の国土交通省「共創モデル実証運行事業」補助金にエントリーしたと認識しているが、その実証内容と結果は。

○足柄オンデマンド

・申請内容は、配車効率化システムの導入、朝晩の定時運行、町跨ぎ運賃のシステム導入を実証として実施したもの。結果は既存のデマンド運行実績とほぼ重複する内容であり、本資料の数値に含まれている。実証は1月末をもって終了している。

○足柄オンデマンド

・今後の取り組みについては、山北町へのエリア拡充に加え、既存エリアの範囲・時間帯・曜日の見直しによる支出削減等の運行効率化も視野に入れる必要がある。寄地区の運行体制見直しもあわせて検討していきたい。

○委員

・富士急モビリティの路線バスへの影響はどうか。

○委員

・きちんと分析すると時間帯によって減っているなどはあるかもしれませんが、全体の数でいうと減ったという感覚はない。

(3) その他

●事務局

・寄地区の運行体制見直しおよび今後のあり方の検討にあたり、国土交通省が示している「交通空白」関連の補助メニューの活用を検討している。詳細は今後関係者と相談のうえ、来年度第1回協議会以降で結果を報告する予定である。

7 閉会

・閉会の挨拶

以 上